

76. 公私空間の境界部に対する意識と形態に関する研究

—世田谷区成城を事例に—

The Relationship between the Residents' Consciousness to the Boundary Space of Private-Public and Boundary Space Design in Living Space

—In A Case of Seijo-district, Setagaya Ward—

高野基樹*・柴田 久**・土肥真人**

Motoki Takano, Hisashi Shibata and Masato Dohi

The purpose of this paper is to grasp the characteristics of the boundary space between private-public in the living space through residents' consciousness analysis and examine the boundary space design with residents' consciousness. We did the survey on Seijo district, Setagaya ward with questionnaire asking their boundary space design and expected functions of their garden, boundary space and districts. Below are the results. 1. Residents have a private-oriented consciousness to their gardens but their consciousness to their district is observed as mingled private and public-oriented. 2. The consciousness to boundary space has effects on above phenomena in several patterns. 3. Specific boundary space design could relate to their owner's consciousness.

Keywords : Boundary Space, Garden, District, Private, Public, Residents' Consciousness
境界部、庭、地域、私、公、住民意識

1. はじめに

現代の生活空間においては公と私の領域は法制度に規定され、また、この規定は空間的に、境界部のデザインとして表現されていると考えられる。このように捉えられる公私の境界部は公私を分けると同時に公私を接続する役割を果たしている。一方で、参加型都市計画などに見られる地域の住環境を自ら保守創造しようとする住民意識が高まる現在、私・公・境界部に対する意識構造を把握することが地域という公・私の領域から成立する概念・空間を検討する上で必要なのではないか。

以上のような問題意識に立脚し、本研究では「自宅の庭」「境界部の形態」「地域の緑」に対する住民意識の指向性を見ることにより生活空間における公私の境界部の特性を明らかにすることを目的とする。また、境界部に対する指向性と境界部の形態の関係性を検討することも試みる。

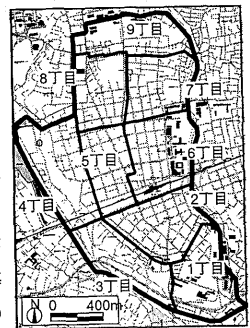
公私空間を扱った既往研究としては、境界構成要素と行為及び意識との関係性について論じたものがあるが¹⁾、公私の境界部に対する指向性を、住民が認識する生活空間の意味とその関係性から考察したものは少ない。また、境界部の形態が与える公私概念への影響を定量的に把握したものは管見では見られない。また、本研究で対象とした境界部である「生垣」に関する既往研究に、囲障の分布実態等を明らかにしたもの等²⁾があるが公私空間の境界部として分析の主眼におく本研究とは視点が異なる。

2. 研究の方法と対象地

本研究は世田谷区成城地区を対象地【図1】とし、無作為抽出した成城1～9丁目の住民に対して個別配布郵送回

収方式によるアンケート調査を行った【表1】。

調査地区である成城は人口約18000人(平成10年)、世帯数約7600世帯で、大正末期より理想の学園都市を目指し開発された郊外住宅地である。また、街の成立(大正12年頃)当初に「境界部を生垣等にする」等の申し合わせが存在し、その影響もあり現在でも緑豊かな住環境が形成されている地域である⁴⁾。



【図1】研究の対象地—成城地区

3. 私・公・境界部に対する意識と形態との関係性

(1)分析の方法

アンケート調査項目¹⁾の「自宅の庭、生垣²⁾の役割及び意識、地域の緑³⁾に対する意識」で得られた回答結果より、公・私・境界部に対する意識特性及び境界部の形態との関係性を考察する。境界部の形態は調査地区で確認されたすべての境界部を網羅するように11タイプを設定した。境界部のタイプは、中木、柵、塀、垣根なし、植

【表1】アンケート概要

| 調査日時 | 調査対象 | 配付数 | 回収数(回収率) | 有効回答数(有効回収率) |
|----------|------------|----------------|--|--------------|
| 1998年12月 | 成城1-9丁目の住民 | 290部 | 142部 (49%) | 134部 (94%) |
| 配布方法 | 回収方式 | 回答形式 | 質問項目 | |
| 配布後郵送 | 回収方式 | 選択形式 (複数回答) | ・自宅の庭、生垣の役割及び意識、生垣一般・宅地の緑に対する意識等・所有する境界部のタイプ | |

【表2】被験者属性

| | 住所 | | | | | | | | | |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|-------|-----|-----|-----|
| | 1丁目 | 2丁目 | 3丁目 | 4丁目 | 5丁目 | 6丁目 | 7丁目 | 8丁目 | 9丁目 | |
| 性別 | 男 | 女 | 居住年 | | | | | | | 30~ |
| | 49% | 51% | ~1 | 1~4 | 4~9 | 10~19 | 20~29 | 30~ | 50% | |
| 年齢 | ~29 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70~ | | | | |
| | 1% | 3% | 19% | 26% | 27% | 24% | | | | |

*学生会員 東京工業大学社会工学科 (Tokyo Institute of Technology)

**正会員 東京工業大学大学院情報理工学研究所 (Tokyo Institute of Technology)

え込み、高木、植栽覆い及びそれらの組み合わせによって構成される【図2】。被験者の属性については、70%以上が50代以降であり、居住歴は30年以上の人が半数を占めた【表2】。

(2)意識特性と境界部の形態との関係性

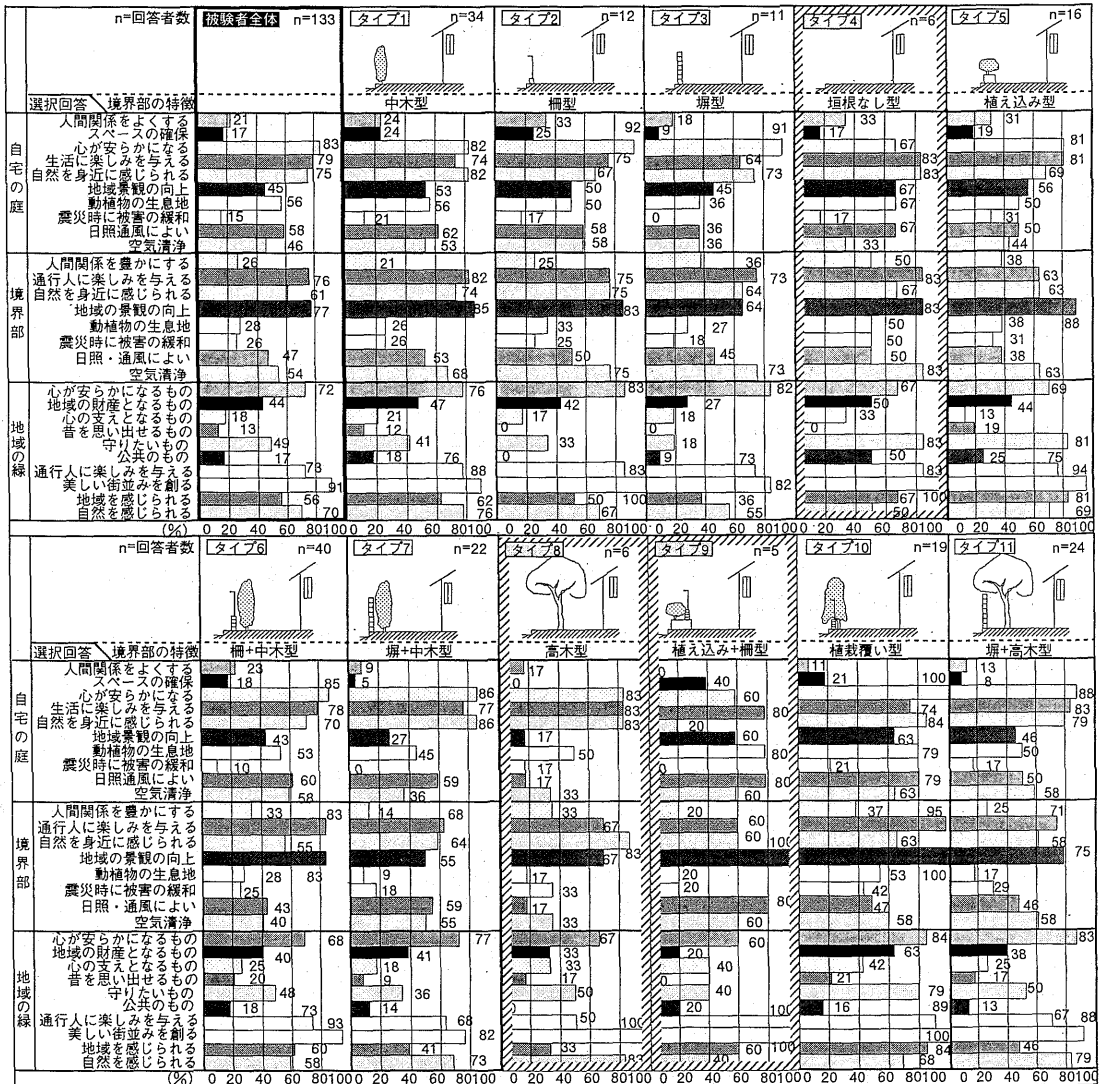
①被験者全体に対する意識特性の考察

調査結果より得られた回答率と境界部タイプとの関連を【図2】に示す。ただし回答者数が少ないタイプ4,8,9については、考察を控えることとする。「自宅の庭」については「心が安らくなる」(83%)「生活に楽しみを与える」(79%)の順に多く、私的な役割を認識している人が多い。公との関係を考慮する「人間関係をよくする」(21%)についてみると認識は低く、庭という私的空間が公とのつなぎ

として意識する人は少ないことが分かる。

「境界部」については「地域の景観の向上」(77%)「通行人に楽しみを与える」(76%)が最も多く、境界部について公を意識する人が多い。しかし、「人間関係をよくする」(26%)の認識が低いことは、公を意識しているが境界部が人間関係のつなぎとして意識されることは少ないことを示唆している。

「地域の緑」については「美しい街並みを創るもの」(91%)「通行人に楽しみを与えるもの」(73%)の認識が高い。地域の緑は多くの人に価値を与えるものと意識され、公的なものと解釈されている。しかし、「公共のもの」(17%)の認識がかなり低いことは、「地域の緑」は主に私権の及ぶ緑により構成されていると認識されていることを示してお



【図2】「自宅の庭・境界部・地域の緑」に対する意識と境界部形態との関連結果

り、私的な緑が全体として公的な性格を持っていると考えられる。これらの結果は、地域空間には公と私とが共存し、私的空間は私的なものであると同時に、多くの人への価値や愛着につながることを認識する住民意識を示すものと言える。

②「自宅の庭」と境界部形態との関係性

被験者全体で回答数の最も多い「心が安らくなる」については、タイプ10ではすべての人が認識しており、多くのタイプでも8、9割の認識が見られる。次に回答数の多い「生活に楽しみを与える」については、塀型のタイプ3で回答が比較的低い。これは、境界部に植栽がなく、人工物で外から視覚的に遮断されている庭が、生活に楽しみを与えにくい傾向にあることを示している。「人間関係をよくする」については、タイプ2,5で比較的高く、私的空間である庭が見えやすい境界部形態は、公との関係を高める働きが見られる。

③「境界部」と境界部形態との関係性

全体で最も回答数の多い「地域の景観の向上」の評価は、タイプ7,3といった道路側に塀を設けた境界部形態においては評価が低い。「通行人に楽しみを与える」についてはタイプ10,6,1で評価が高く、道路側から多くの緑が見える形態と「通行人に楽しみを与える」という認識には関係性が見られる。これらは、境界部が公的なものであるという意識と公に向けられた境界部の形態に関係性があることを示唆している。

④「地域の緑」と境界部形態との関係性

「美しい街並みを創る」「通行人に楽しみを与える」については公を意識していると解釈できるが、境界部の形態別の回答にはあまり差が見られず、「地域の緑」に対する公的なものとしての意識は、境界部形態の違いにあまり関係性がないといえる。「守りたいもの」については全体では5割弱であるが、タイプ5,10では8割前後の認識がされている。境界部として公私を視覚的に直接つなぐ形態及び公私両側に対して多くの緑がある形態は、地域を守りたいという私的感情に結びつく傾向が見られる。

(3)まとめ

以上の結果を以下にまとめる。

「自宅の庭」については公的なものと意識する被験者も見られたが、大半は私的なものとする指向性が見られた。一方「地域の緑」については、私・公の認識が共存し、それが愛着へ繋がっている住民意識が把握された。「境界部」については公的なものと意識され、また、人間関係を繋ぐものという意識はあまり見られなかった。

形態との関連で見ると、自宅の庭においては、私的楽しみは庭の可視度及び植栽の有無に関係があり、公への指向性は庭の可視度との関係性が見られた。また、境界

部においては、公に向けられた境界部の形態と境界部を公的なものとする指向性には関係性が見られた。さらに、地域の緑においては、公への指向性は形態との関連が見られなかったが、私への指向性は庭が直接見えること及び公私両側面における緑の多さとの関連が見られた。

4. 境界部に対する指向性と意識における境界の位置

(1)分析方法

本章では、前章で考察された各空間毎の指向性の特徴を把握し、これらの関係性から指向性の組み合わせを検証、意識における境界の位置について考察する。

(2)「自宅の庭」「境界部」「地域の緑」に対する指向性の特徴

ここでは、前章までに考察された各々の空間に対する指向性の特徴を把握するため、アンケート調査結果に対する主成分分析を行った。寄与率、主成分負荷量等の分析結果を〔表3〕に示す⁽⁴⁾。また、考察の際、得られた主成分得点を用いたクラスター分析を行い、類型化された空間ごとのクラスターについて、各主成分得点の平均値〔表4〕を用いてそれぞれ解釈を加えた。

以下に、被験者数の多かったクラスターについて、その特徴、公私の指向性を考察する〔図3〕。

①「自宅の庭」に対する意識の指向性

〔表3〕主成分分析結果

| ＜自宅の庭＞ | | | | |
|---------------|---------|---------|---------|----------|
| | 主成分1 | 主成分2 | 主成分3 | 主成分4 |
| 1 空気清浄 | 1 0.43 | 1 -0.05 | 1 0.05 | 1 -0.26 |
| 2 日照・通風によい | 2 0.25 | 2 -0.35 | 2 0.48 | 2 -0.29 |
| 3 震災時に被害の緩和 | 3 0.34 | 3 -0.27 | 3 -0.36 | 3 0.38 |
| 4 動植物の生息地 | 4 0.34 | 4 -0.22 | 4 0.26 | 4 -0.04 |
| 5 地域の景観の向上 | 5 0.31 | 5 0.10 | 5 -0.49 | 5 -0.45 |
| 6 自然を身近に感じられる | 6 0.33 | 6 0.40 | 6 -0.01 | 6 0.11 |
| 7 生活に楽しみを与える | 7 0.24 | 7 0.27 | 7 0.50 | 7 0.44 |
| 8 心が安らくなる | 8 0.29 | 8 0.53 | 8 -0.12 | 8 0.15 |
| 9 スペースの確保 | 9 0.25 | 9 -0.47 | 9 -0.24 | 9 0.45 |
| 10 人間関係をよくする | 10 0.32 | 10 0.03 | 10 0.05 | 10 -0.27 |
| 固有値 | 3.01 | 1.421 | 1.06 | 0.921 |
| 寄与率 | 30% | 14% | 11% | 9% |
| 累積 | 30% | 44% | 55% | 64% |
| ＜境界部＞ | | | | |
| | 主成分1 | 主成分2 | 主成分3 | 主成分4 |
| 1 空気清浄 | 1 0.46 | 1 -0.17 | 1 0.23 | 1 -0.03 |
| 2 日照・通風によい | 2 0.28 | 2 -0.56 | 2 -0.27 | 2 -0.13 |
| 3 震災時に被害の緩和 | 3 0.39 | 3 0.03 | 3 -0.49 | 3 -0.17 |
| 4 動植物の生息地 | 4 0.43 | 4 0.07 | 4 -0.19 | 4 0.34 |
| 5 地域の景観の向上 | 5 0.22 | 5 0.55 | 5 0.29 | 5 -0.57 |
| 6 自然を身近に感じられる | 6 0.31 | 6 -0.13 | 6 0.65 | 6 0.44 |
| 7 通行人に楽しみを与える | 7 0.36 | 7 -0.13 | 7 0.15 | 7 -0.41 |
| 8 人間関係を豊かになる | 8 0.29 | 8 0.56 | 8 -0.26 | 8 0.39 |
| 固有値 | 2.6 | 1.025 | 0.979 | 0.899 |
| 寄与率 | 33% | 13% | 12% | 11% |
| 累積 | 33% | 45% | 58% | 69% |
| ＜地域の緑＞ | | | | |
| | 主成分1 | 主成分2 | 主成分3 | 主成分4 |
| 1 自然を感じられる | 1 0.23 | 1 0.28 | 1 0.00 | 1 0.80 |
| 2 地域を感じられる | 2 0.42 | 2 -0.16 | 2 -0.09 | 2 -0.31 |
| 3 美しい街並みを創る | 3 0.17 | 3 -0.16 | 3 0.69 | 3 0.18 |
| 4 通行人に楽しみを与える | 4 0.37 | 4 0.07 | 4 0.39 | 4 -0.24 |
| 5 公共のもの | 5 0.26 | 5 -0.37 | 5 -0.47 | 5 0.23 |
| 6 守りたいもの | 6 0.42 | 6 -0.22 | 6 -0.10 | 6 0.06 |
| 7 昔を思い出せるもの | 7 0.19 | 7 0.58 | 7 -0.25 | 7 -0.31 |
| 8 心の支えとなるもの | 8 0.32 | 8 0.33 | 8 -0.19 | 8 0.08 |
| 9 地域の財産となるもの | 9 0.35 | 9 -0.37 | 9 -0.04 | 9 -0.09 |
| 10 心が安らくなるもの | 10 0.33 | 10 0.31 | 10 0.20 | 10 -0.04 |
| 固有値 | 2.87 | 1.229 | 1.102 | 0.941 |
| 寄与率 | 29% | 12% | 11% | 9% |
| 累積 | 29% | 41% | 52% | 61% |

【表4】各主成分得点の平均値

| ＜自宅の庭＞ | | 主成分1 | 主成分2 | 主成分3 | 主成分4 |
|--------|----|-------|-------|-------|-------|
| クラスタA | 74 | 0.00 | 0.71 | 0.50 | -0.02 |
| クラスタB | 23 | -1.29 | -0.28 | -1.39 | -0.68 |
| クラスタC | 22 | 2.66 | -0.84 | -0.64 | 0.75 |
| クラスタD | 14 | -2.06 | -1.99 | 0.64 | -0.16 |
| ＜生垣＞ | | 主成分1 | 主成分2 | 主成分3 | 主成分4 |
| クラスタa | 49 | 0.74 | -0.15 | 0.87 | -0.19 |
| クラスタb | 39 | -1.07 | 0.83 | -0.29 | -0.41 |
| クラスタc | 30 | -1.18 | -1.11 | -0.50 | 0.74 |
| クラスタd | 15 | 2.73 | 0.57 | -1.08 | 0.18 |
| ＜地域の緑＞ | | 主成分1 | 主成分2 | 主成分3 | 主成分4 |
| クラスタα | 59 | -1.27 | -0.22 | 0.43 | 0.04 |
| クラスタβ | 47 | 1.64 | -0.54 | -0.14 | 0.30 |
| クラスタγ | 17 | 1.03 | 1.85 | 0.16 | -0.59 |
| クラスタδ | 10 | -1.95 | 0.66 | -2.16 | -0.63 |

「自宅の庭」に対しては、＜心が安らぎ、自然を身近に感じられると意識する＞(A)が74人で最も多く、被験者の半数以上がこれに属する。これは庭がリラックスできる私的空間として多く認識されているものといえる。一方、23人で次に多い＜景観の向上と防災に気を配り、空気の浄化や生態系をあまり意識しない＞(B)は自宅の庭という私的空間に公的な役割を見出していると言える。

②「境界部」に対する意識の指向性

「境界部の形態」に対しては＜自然を身近に感じられ、空気の浄化や生態系を意識する＞(a)が49人で最も多く、「境界部の形態」の植物による構成が、機能面の認識を促してはいるが、公私空間の規定としての指向性は見られない。次に多い＜空気の浄化や生態系をあまり意識せず、人間関係と景観の向上を意識する＞(b)は39人で、境界部を公私空間との接続部にあるものとして認識し、公的空間との関係性に大きく寄与していると考えられる。＜空気の浄化や生態系をあまり意識せず、日照・通風の役割を意識する＞(c)は30人で「境界部」の快適性を評価し、公私の空間規定という評価とは関係が見られない。

③「地域の緑」に対する意識の指向性

「地域の緑」に対しては＜地域性を感じ、守りたいものとあまり意識しないが、美観性を感じる＞(α)が59人で最も多く、「地域の緑」の公的機能を評価していると言える。次に多い＜地域性を感じ、守りたいものと意識する＞(β)は47人で「地域の緑」に対して、地域性という公的意識を持ちつつ、守りたいという私的で特別な思いを持っていると解釈できる。＜昔を思い出せ、心の支えとなるものと意識する＞(γ)は17人で少ないが、「地域の緑」という公的なものに対して私的な意味合いを感じていると言える。

(3)「自宅の庭・地域の緑・境界部」2者間の指向性

ここでは前項で得られたクラスターの考察結果を用いて、空間毎の意識の指向性の組み合わせを検証し、意識における境界について考察する。はじめに2空間に対する意識の組み合わせについて考える。組み合わせに属する人数を【表5】に示した。

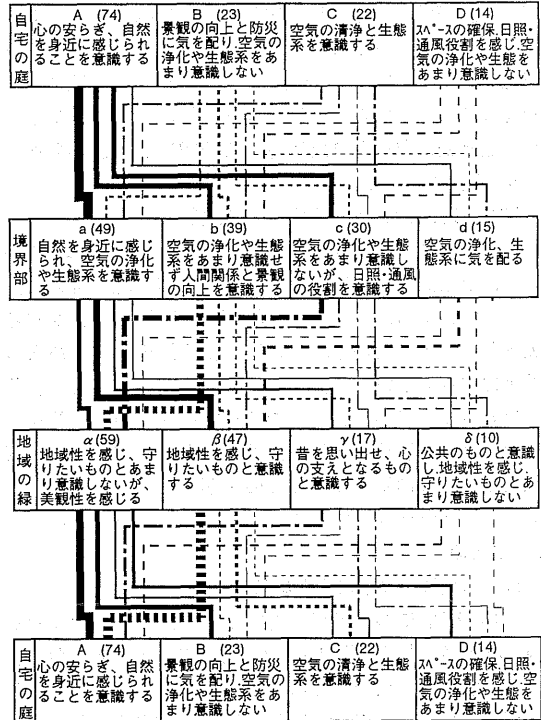
①「自宅の庭」-「境界部」

自宅の庭の役割と境界部の役割において分けられたク

ラスタで最も多いパターンは、クラスターAとクラスターa(以下、パターンA-a)の組み合わせで32人が該当する。庭の持つ自然を身近に感じられる役割を境界部にも同様に感じており、「境界部」が空間を分けるものとして存在するのではなく庭の延長として認識している。また、「自宅の庭」の役割として心の安らぎを感じており、このパターンは「境界部」に対して私的な意識を持っていると言えるだろう。次に該当者の多いパターンA-b(19人)は庭についてはパターンA-aと同じだが、「境界部」の役割として環境衛生的機能の評価より、人間関係や景観の向上といった私から公への指向性を意識していると考察できる。つまり「境界部」は公私空間の接続部として公と私をつないでいる。パターンA-c(17人)は「境界部」の役割として空気の浄化や生態系をあまり意識しないが、日照・通風の役割を評価しており、クラスターAの解釈と合わせればどちらも緑による快適性の向上、つまり私的な安らぎから私的な快適性へと指向が私へ向いていると考察できる。

②「境界部」-「地域の緑」

クラスターa(49人)、クラスターα(59人)各々は該当者が



【図3】「自宅の庭・境界部・地域の緑」に対する指向性の組み合わせ

【表5】組み合わせの該当数

| パターン | A-a | A-b | A-c | A-d | B-a | B-b | B-c | B-d | C-a | C-b | C-c | C-d | D-a | D-b | D-c | D-d |
|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 人数 | 32 | 19 | 17 | 6 | 7 | 9 | 6 | 1 | 7 | 5 | 2 | 8 | 3 | 6 | 5 | 0 |
| パターン | a-α | a-β | a-γ | a-δ | b-α | b-β | b-γ | b-δ | c-α | c-β | c-γ | c-δ | d-α | d-β | d-γ | d-δ |
| 人数 | 15 | 23 | 8 | 3 | 24 | 8 | 5 | 2 | 18 | 6 | 1 | 5 | 2 | 10 | 3 | 0 |
| パターン | α-A | α-B | α-C | α-D | β-A | β-B | β-C | β-D | γ-A | γ-B | γ-C | γ-D | δ-A | δ-B | δ-C | δ-D |
| 人数 | 27 | 16 | 6 | 10 | 32 | 4 | 10 | 1 | 9 | 1 | 6 | 1 | 6 | 2 | 0 | 2 |

最も多いがパターン α - α (15人)で見るとそれ程多くないのは興味深い。これは「境界部」と「地域の緑」に対する意識が、被験者によって多様であることを示唆している。パターン α - α は「境界部」について植物による機能を評価する一方、「地域の緑」については地域性・保全意識は低いが、景観的な美は意識している。これは「境界部」「地域の緑」に対して機能・美しさについては評価しているが地域への愛着にはつながっていないと考察できる。パターン b - α (24人)は「境界部」、「地域の緑」のどちらに対しても地域における景観的価値を認識しており、公的指向性を持つと考察できる。一方パターン α - β (23人)は「境界部」については自然を身近に感じられるものと評価し、「地域の緑」については守りたいものとして意識され、どちらの空間に対しても親しみを持っており私への指向性を持つと考察できよう。

③「地域の緑」-「自宅の庭」

「地域の緑」と「自宅の庭」に対する意識はパターン b - A (32人)が最も多い。このパターンは、どちらの空間に対しても「守りたいもの」「心が安らぐ」といった大切な空間として認識しており、公私への指向性はどちらも愛着へ向かっていると考察できる。パターン α - A (27人)は「地域の緑」について美観性は評価できるが、愛着へとはつながらない一方で、「自宅の庭」では精神的な安らぎを意識でき、公と私で意識が分かれていると考察できる。パターン α - B (16人)はどちらの空間に対しても景観の向上としての評価が共通しており、公私空間においてどちらも公への指向性が見られる。

④意識における境界について

ここでは①、②、③において考察された公・私指向性を整理し、意識における境界について考察する。「自宅の庭」-「境界部」についてみると、パターン A - a 、 A - c は自宅の庭から境界部に対し、私への指向性がみられ、意識における境界は2者間には存在しないパターンと言える。一方、パターン A - b は自宅の庭から境界部に対し、公への指向性が見られ、意識における境界は境界部に存在するパターンと考察できる。

「境界部」-「地域の緑」についてみると、パターン b - α は公への指向性があるのに対し、パターン α - β は私への指向性がある。境界部は意識における境界として公の指向性、私の指向性の二面性を持つことが推察される。

「自宅の庭」-「地域の緑」についてみると、パターン α - A は2者間で公と私で意識が分かれており、境界部が意識における境界として存在しているパターンと考えられる。パターン β - A は公私において私的指向性が変わらず、また、パターン α - B は公私において公的指向性が変わらないため、境界部が意識の境界として存在しないパターン

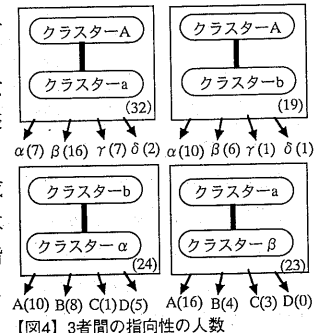
と言えるだろう。

(4)「自宅の庭」・境界部・地域の緑」3者間の指向性

(3)で考察されたパターンの内、人数の多いものがその他の空間に対する指向性とどのような関係にあるかを把握し【図4】、「自宅の庭」・境界部・地域の緑」3者間の指向性を考察する。

パターン A - a (32人)は境界部に対し、私への指向性がみられるが、このパターンの「地域の緑」に対しては地域性を感じ、守りたいもの(β)>と評価されるものが最も多い。一方、パターン A - b (19人)は境界部に対し、公への指向性が見られるが、このパターンの「地域の緑」に対する意識は地域性を感じ、守りたいものと意識しないが美観性を感じる>とされるものが多く。これらの結果は「自宅の庭」と「境界」の指向性の違いが「地域の緑」に対する意識を決定する要因として働くことを示している。

パターン b - α (24人)は「境界部」に公への指向性を見出しているが、「自宅の庭」に対する意識は心が安らぎ、自然を身近に感じられる(A)>が最も多い。パターン α - β (23人)は「境界部」に私への指向性が見られるが、「自宅の庭」に対する意識はパターン b - α と同様(A)が最も多い。これらの結果は「境界」と「地域の緑」の指向性の違いは「自宅の庭」に対する指向性との関係が低いことを示している。



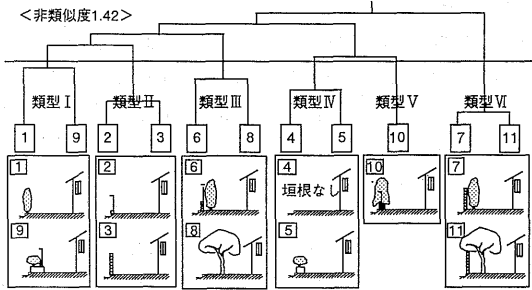
【図4】3者間の指向性の人数

5. 公私の指向性と形態との関係性

前項で得られたパターン中の該当数の多いものについて、境界部の形態との関係性を把握するために重回帰分析を行った。各パターンに属する被験者の生垣タイプを説明変数とし、各パターンの解釈に用いた主成分得点を目的変数として分析を行った⁽⁵⁾。説明変数の多重共線性を考慮し、生垣タイプに対して変数クラスター分析を行い、生垣のタイプが6つの分類に分けられた⁽⁶⁾【図5】。

重回帰分析の結果を【表6】に示した。なおパターン A - a 、 α - A 、 β - A は決定係数が低く、分析結果の積極的解釈はさけた。

パターン A - b (19人)は目的変数 A については決定係数が0.45であり、比較的高いため、回帰係数を解釈する。回帰係数の高い生垣の類型はⅢ、Ⅳであり、これらのタイプの特徴は「自宅の庭」が見えやすく、緑を公私どちらも見る事ができる形態と言える。「自宅の庭」を私的経験のできる空間と意識し、「境界部」はコミュニティを



【図5】 クラスター分析結果（樹形図）

【表6】 回帰係数推定結果⁷⁾

□ は標準偏回帰係数

| パターン | 目的変数 (主成分得点) | 決定係数 | 説明変数 | | | | | |
|------|-----------------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | | | 類型Ⅰ | 類型Ⅱ | 類型Ⅲ | 類型Ⅳ | 類型Ⅴ | 類型Ⅵ |
| A-a | A | 0.18 | -0.11 | 0.25 | 0.08 | 0.31 | -0.08 | 0.04 |
| | a | 0.19 | 0.07 | 0.05 | 0.12 | 0.19 | -0.33 | 0.16 |
| A-b | A | 0.45 | 0.00 | -0.47 | 0.57 | 0.51 | 0.29 | -0.22 |
| | b | 0.11 | -0.10 | -0.11 | 0.00 | -0.07 | -0.12 | -0.38 |
| a-α | a | 0.47 | -0.50 | 0.35 | 0.20 | -0.20 | -0.63 | 0.47 |
| | α | 0.56 | -0.31 | 0.37 | -0.12 | 0.22 | -0.85 | 0.70 |
| a-β | a | 0.39 | -0.21 | 0.27 | -0.27 | -0.16 | -0.65 | 0.09 |
| | β | 0.24 | -0.05 | 0.00 | 0.46 | 0.14 | -0.16 | -0.08 |
| b-α | b | 0.17 | 0.24 | -0.33 | 0.00 | 0.14 | -0.22 | -0.09 |
| | α | 0.50 | 0.48 | -0.32 | 0.61 | 0.02 | -0.30 | -0.03 |
| α-A | A | 0.10 | -0.12 | -0.06 | -0.01 | -0.23 | 0.15 | -0.18 |
| | α | 0.23 | 0.24 | -0.18 | 0.28 | 0.36 | -0.05 | 0.08 |
| β-A | A | 0.17 | 0.21 | -0.37 | 0.09 | 0.24 | 0.05 | 0.11 |
| | β | 0.20 | 0.09 | -0.03 | 0.36 | -0.01 | 0.32 | -0.01 |

つなぐもの意識するパターンA-bは境界部の形態として私的空間が見える形態を持つ傾向がある。また、緑のない類型であるⅡの係数が-0.47であることを勘案すれば、緑の存在が心の安らぎや自然を身近に感じられることにつながっていることが分かる。目的変数bについては決定係数・標準偏回帰係数が低いことに留意すると、以上に述べた境界部の形態は「自宅の庭」に対する意識に、より影響を与えていると考察できる。

パターンa-α(15人)は目的変数a, αの決定係数が高く、回帰係数の数値に信頼性があると言える。回帰係数の高い類型Ⅵは境界部が塀で断絶され、その内側に緑を配する形態である。パターンa-αは自然を身近に感じ、緑の機能に対する評価をしているが、地域空間の構成要素である地域の緑に対して「地域性」<守りたいもの>としての認識はされていない。これより境界部に塀を設けることは「地域の緑」に対する愛着への可能性を抑制する傾向が見られると考察できる。

パターンb-α(24人)は「境界」・「地域の緑」のどちらに対しても景観の向上を評価しているグループであるが、回帰係数の高い形態は、公に向けられた境界部に緑が単体として存在する類型Ⅰと、私的空間内の緑が外部から見えやすい類型Ⅲが高い。これより緑が独立して存在し、公に対して視覚的に目立つ形態は、景観の向上に役立つという意識につながりやすいことが示された。

6. 結論

本研究の成果を以下にまとめる。

①住民に対する意識調査から「自宅の庭」に対して私的なものとする指向性が見られ、また、「地域の緑」に対しては私・公としての認識が共存し、それが愛着へつなっている住民意識が把握された。さらに、「境界部」に対しては公的なものと意識される傾向にあり、形態との関連で見ると、公に向けられた境界部形態と境界部を公的なものとする指向性には関係性が見られた。

②「境界部」-「地域の緑」に対する指向性の違いと「自宅の庭」に対する指向性に関係性は見られなかったが、「自宅の庭」-「境界部」に対する指向性の違いは「地域の緑」に対する意識を決定する要因として働くことが分かった。

③庭の見える境界部の形態は「自宅の庭」に対する意識に影響を与えること、境界部に塀を設けることは「地域の緑」に対する愛着を抑制する傾向があること、緑が独立して存在し、公に対して視覚的に目立つ境界部は地域の景観の向上という認識に繋がることが定量的に把握された。

本研究では「生垣」「自宅の庭」「地域の緑」に対する指向のパターンを見ることにより、意識面における境界の存在について考察したが、指向のパターンは個人により多様であり、意識構造を成立させている要因は被験者の所有する境界部の形態だけではない。地域空間の境界部の形態、庭への関わり、地域コミュニティへの関わり等を考慮し、指向のパターンとの関係を明らかにすることは今後の課題としたい。

謝辞 アンケート調査にご協力して頂いた成城に住む皆様に感謝の意を表します。
補注

- アンケート調査の質問項目に対する回答は【図2】に示した境界部形態11タイプと【図2】中の選択回答から選択された。また、被験者が11タイプ中に属さないと思われた境界部形態については、「その他」として被験者自身に描いてもらい、アンケート回収後、分析者が該当タイプに振り分け、いずれにも該当しないと思われるものは分析対象から外した。また、選択回答は既往研究と調査対象地区におけるヒアリング調査を参考に作成した。「人間関係をよくする」「人間関係を豊かにする」については、ヒアリング調査における「庭に関する話題や植物の分け合い等によるコミュニケーションの活性化」等の意見より選択肢として設定した。
- 予備調査として境界部の形態の実測調査を行ったところ、住宅系敷地について生垣の延長率(後道延長に占める長さの割合)が23%であった。文献3を参考に、生垣を境界部の形態として質問項目を設定した。
- 本論で行ったアンケート調査中で「生垣一般・宅地の緑」「地域の緑」と意識するか」という5段階選択の設問に対し、被験者の9割近くが「かなり意識する」「意識する」と回答しているため、本論では、「生垣一般・宅地の緑」を「地域の緑」として考察を行う。
- 主成分分解の際、考慮した負荷量が太枠、網掛けを付記した。
- クラスターの特徴づけの際に用いた主成分得点の平均値が負のクラスター得点については解釈の便宜上、各々の点数の符号を+→-, -→+にし、すべてのクラスターにおいて標準偏回帰係数が正の場合、そのクラスターの特徴をより意識する方向と解釈した。分けられた分類を所有する生垣タイプと回答しているものをこの分類に属するものとしてダミー変数1を与え、重回帰分析を行った。
- 回答者が少ないタイプについては、これらを除いたクラスター分析結果より、11タイプの場合と同じ6類型が抽出され、分析結果に影響がないことが確認されている。
- αは被験者が多いパターンであるが説明変数がすべて0となる類型があるため重回帰分析ができなかった。

参考文献

- 北原啓司他(1989)『住戸まわりにおけるSF化と「境界」形態』日本都市計画学会学術研究論文No24, pp415-420.
- 田畑貞寿(1983)『緑視空間からみた居住環境の安定化に関する研究』日本都市計画学会学術研究発表会論文集No18, pp127-132.
- 柳井重人(1995)『東京都大田区における生垣の分布と住民意識に関する研究』ランドスケープ研究58(5), pp273-276.
- 世田谷区店線合支所街づくり課(1994)『貴重な自然・歴史と文化が息づく街成城のまちづくりを考える』世田谷区店線合支所街づくり課